

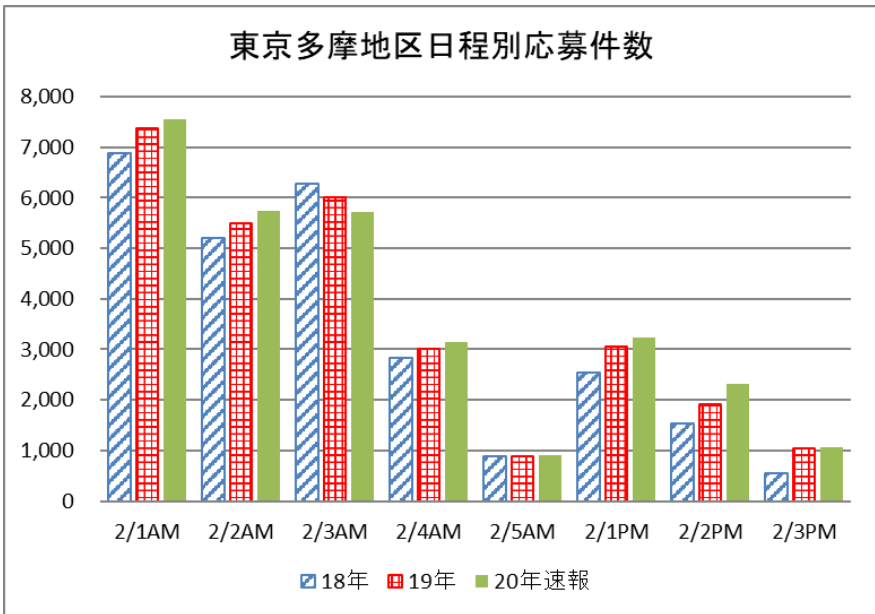
東京多摩地区私国立中入試概況

1. 概況 応募者数、受験者数の増加は続くが、難関校志向はあまり強くない

今年の郡部を含む多摩地区の公立小6年生の児童数は約35,100名で、昨年より約800名増加しています。1月までに実施される帰国入試を含めた、2月17日現在の中学受験の応募総数は私立、国立、公立一貫校の合計約31,300件で、昨年の最終を約1,200件上回りました。一部に入試結果未公表の学校や追加入試を行う学校などがあり、今後その分が上乘せされます。一昨年、昨年に続く応募者数増加ですが、今年は昨年ほどの増加幅ではありません。実際の受験者数は約23,400名で、昨年同時期の約

22,300名より1,100名増加、合格者数は約9,100名で、昨年同時期と比べると200名しか増えていません。合格者数にはコース制実施校での上位コース入試での入り易いコースのスライド合格や、特待入試での一般合格を含まない学校もありますから、「入学できる合格者数」はもっと増えますが、実際の受験者数が1,100名も増えたのに合格者数が200名しか増えていないということは、全体的には倍率も上昇して難化したことを示しています。しかし、全ての学校が難化したわけではなく、応募者が減った学校もあります。

上のグラフは中学受験の各校の応募者数を日程別に集計して一昨年、昨年と比較したものです。私立、国立、公立一貫校の合計で、今年は速報値です。応募総数では2月1日午前が今年も最多で、第一志望の受験生が多く、昨年より200名近く増えています。2番目は、昨年や一昨年は3日午前で、3番目が2日午前ですが、今年は2日午前と3日午前の差がほとんどありません。3日午前が減って2日午前が増えています。都心部のプロテスタント校が日曜日を避けて2日午前から2日午後や3日午前に日程を移動した学校が出ていて、その影響による受験生の移動が多摩地区にも及



んでいます。23区内の方が多摩地区よりも学校数が多いことから東京都心志向の受験生が多いためです。もちろん、多摩地区にも良い学校はたくさんあります。

2月4日午前や5日午前になると応募者数は少なくなります。4日は小幅、5日はわずかですが昨年より増えているものの、あまり遅い日程まで挑戦を続ける受験生は多くはありません。午後入試は1日午後、2日午後、わずかですが3日午後も昨年より応募者が増えています。午後入試で魅力的な学校が増えています。多摩地区に限ると23区内の各校の動きや、神奈川県桐蔭学園が午後入試の設定を2日午後から1日午後に移したことなど、エリア外の各校の動きの影響を受けて応募者の増加です。

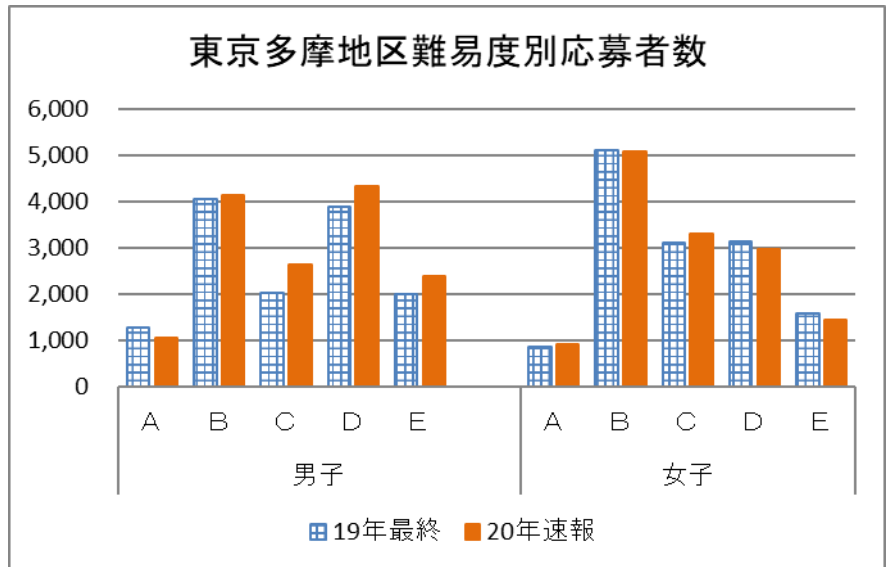
今度は、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別

で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年には今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。

男子は、昨年はBグループとDグループがほぼ同じ、CグループとEグループもほぼ同じで、最難関のAグループが一番少ない応募状況でしたが、今年はAグループがやや減ったものの、他のグループは全て増えていて、特にDグループが増加して最多になりました。Aグループが減ったのは、「無理をしてまで最難関校は狙わない」とする安全志向でしょう。Dグループの増加は、昨年共学化した武蔵野大学の人気が上がっている影響です。

女子はほぼ昨年並みで、しいて言えばDグループが増えています。こちらも武蔵野大学への高評価で応募者が増えたためです。それ以外は小

幅の変動にとどまっています。昨年とあまり変わらない応募者数です。他の地区のグラフだとEグループが最少になることが多いのですが、多摩地区ではAグループが早稲田実業と明大明治しかなく、EグループがAグループより多いからといって、Eグループの人気が高いというわけではありません。男女とも昨年とあまり変わらないグラフですが、個別の学校の状況はいろいろです。以下、各校の入試状況を見ていきます。なお、都立の立川国際、南多摩、三鷹、武蔵高附属は、公立一貫校のページをご覧ください。



◎ 難易度別グループینگ

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で多摩地区私国立中を次のようにグループングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…明大明治・早稲田実業
- B…吉祥女子・成蹊・中大附属・帝京大学・桐朋・法政大学
・明大中野八王子
- C…穎明館・大妻多摩・桜美林・晃華学園・創価
・八王子学園(東大医進)・明治学院・東京学芸大小金井
- D…共立女子第二・工学院大附属・聖徳学園(特奨)・玉川学園
・多摩大聖ヶ丘・東京純心女子・東京電機大・桐朋女子
・ドルトン東京学園・日大第三・八王子学園(一貫特進)
・武蔵野大学・明法(サイエンスGE)
- E…サレジオ(小平)・国立音大・啓明学園・駒沢学園女子
・白梅学園清修・自由学園男子部・同女子部・聖徳学園(一般)
・帝京八王子・東海大菅生・東星学園・日体大桜華
・八王子実践・藤村女子・明星学園・武蔵野東・明星
・明法(進学GRIT・国際理解)・和光

2. 男子校・女子校

男子校から。桐朋の応募者数は、2月1日の1回、2日の2回の合計で一昨年が少し減り、昨年は増加、今年にはほぼ昨年並みでした。回次ごとでは1回がやや減って2回は昨年に続いて増えています。併願受験生が増加の中心です。合格者数は1・2回とも昨年並み、合格最低点も昨年並みですが、2回は受験者が増えた分、ボーダーライン付近が厳しくなったようです。

明法は国際理解、進学GRIT、サイエンスGEの3コース制です。昨年、高校募集を共学化しましたが、

中学募集は男子校のままです。昨年までは、受験生は出願時に希望コースを選択していましたが、今年からはコースを指定せず、合格発表で合格コースを提示する方式(国際理解だけは英検4級以上の出願資格あり)に変更しました。このため、各回次合計の応募者数は大きく減少、小規模な入試になっています。実際の受験者数もやや減っています。合格最低点は回次やコースごとに上下が見られますが、難度はあまり変わっていないようです。高校が併設されていないサレジオ(小平)は、今年も小規模な入試で、難度もあまり変わっていないようです。

女子校は吉祥女子から。一昨年まで隔年で各回次合計の応募者数が増減していましたが、昨年は減る順番なのに増加、今年も増えて人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者は絞っていて、実質倍率は上がっています。2月1日の1回は合格最低点がやや下がっていますが、出題難度の関係でしょう。難度は変わっていないようです。2日の2回は上昇、少し難化しました。4日の3回は昨年並みです。カトリック校の晃華学園は、一昨年は各回次合計の応募者数が減りましたが、昨年午後入試を新設して大きく増えました。今年も増えていて、2月1日午後の2回は昨年並みですが、1日午前の1回と3日午前の3回が増えています。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は絞っています。ただ、合格最低点は1・2回が少し下がっていて、3回は昨年並みです。出題難度の関係もありますが、1・2回はやや入りやすくなっているのかもしれませんが、3回は昨年並みでしょう。

大妻多摩は国際教養コースを新設、在来のコースを総合進学コースとする2コース制になりました。国際教養コースは、中学1年は総合進学コースと混合クラスで英語だけ別指導となっていて、本格的には中2からクラスを分けて別プログラムの授業になります。国際教養コースの一般入試は英語が課せられたほか、2月2日午前の合科型を1日午前に移して総合思考力型としたり、4日のプレゼン入試を取りやめるなどの変更がありました。一昨年は各回次合計の応募者数が増えていましたが、昨年は減少、今年はやや増加です。実際の受験者数も昨年並みですが、合格者は増えていて、合格最低点は2月1日の総合進学コースが下がって、少し入りやすくなったようです。他の回次の総合進学コースは昨年並みでしょう。国際教養コースは英

語力がポイントで、総合進学の難度+ある程度高度な英語力が求められるようです。

東京純心女子は、一昨年まで各回次合計の応募者数が減っていましたが、昨年は特に2月2日午前の応募者が増えて、小規模な入試を脱しました。しかし、今年はやや減って小規模な入試に戻っています。実際の受験者数も減っていて、合格者数もやや減っています。合格最低点は昨年並みの回次が多いのですが、中にはかなり上がっているものも見られます。得点分布の関係でしょう。全体的な難度は変わっていません。共立女子第二は昨年新設した理科実験のサイエンス入試を2月1日午後に移動、2日午前入試を2科4科選択から2科に絞りました。各回次合計の応募者数は一昨年から少し減って、昨年、今年と増えています。増加の中心は2日午前で、2科4科選択が2科に変わったことよりも他校併願の受験生が増えたことが増加の理由でしょう。実際の受験者数や合格者数も増えていて、合格最低点は上下が見られる回次もありますが、もともと不合格者が少ないことから、難度面ではあまり変わっていないようです。

桐朋女子は曜日の関係で帰国生入試の日程が変更されています。各回次合計の応募者数は、一昨年はやや減って昨年は増加、今年はやや減少です。昨年、21世紀型学力を求める2月2日の論理的思考力・発想力入試の応募者が減って、2日午後のB入試が大きく増えていて、同校が力を入れている教育の方向性と実際の受験生の動きがややマッチしていない状況が見られましたが、今年もB入試も昨年並み、論理的思考力・発想力入試は応募者の増加が目立ちました。合格最低点は昨年並みで、難度面ではあまり変わっていないようです。白梅学園清修は2月2日午前に、昨年取りやめた適性検査型を復活させるなどの変更がありました。昨年は各回次合計の応募者が減って、小規模な入試になりましたが、今年はやや増加して小規模を脱しています。難度面ではあまり変わっていないようです。藤村女子、駒沢学園女子、日体大桜華も小規模な入試の学校で、いくつか入試に変更はあった学校もありますが、今年も小規模な入試で難度にも特に変化は見られません。

3. 男女校

付属カラーの強い学校から見ていきます。早稲田実業は、一昨年は男女とも応募者がやや増加、昨年は男

女とも増加しましたが、今年は男子が減少、女子は昨年並みでした。昨年は男子の増加が目立ちましたが、今年はその反動での減少でしょう。女子は安定した人気です。実際の受験者数も男子は減少、女子は昨年並みですが、合格者数は男女とも昨年並みでした。ただ、合格最低点は男女とも上がっています。実質倍率は目立った数字の変化はないものの、男女とも受験生の学力水準が上がった結果でした。

明大明治は、一昨年は2月2・3日の1・2回では男女とも応募者が増えていて、特に女子が目立ちました。昨年は男子の1回が一昨年並み、2回は少し増えましたが、女子は1・2回とも減少していました。同校は男女別の入学生のバランスが取れなくなってきたためか、今年から男女別の定員に移行しました。その影響からか、今年は男子が1・2回とも応募者が減少、1回の女子は増加、2回は昨年並みでした。もともと男子校だったことから、男女別定員にすると男子に不利に働くのでは、というイメージがあったのかもしれませんが。実際には昨年も合格最低点は女子の方が高く、今年の合格最低点は1・2回男女とも少し上がっています。やや難化した結果でした。

系列校の明大中野八王子は、各回次合計では一昨年前年並み、昨年はやや増えていて、今年は少し減って一昨年並みでした。昨年は男女別では女子の増加が目立ちましたが、今年はその女子が少し減っています。ただ、大幅な変化ではありません。人気は安定傾向ですが、合格最低点は2月3日のA2回の男子が少し上がり、5日午後のBは男女とも上がりました。出題の難度も影響しますが、応募者数では安定しても、同校を考える受験生の学力層はやや上がっているようです。

法政大学は、各回次合計の応募者数が一昨年は増加、昨年は一昨年並み、今年はやや減っています。2月3日の2回の女子の減少が目立ちますが、他校に流れたのかもしれませんが。合格最低点は各回次男女とも昨年とあまり変わっておらず、女子が男子よりも高い傾向は今年も続いています。補欠も出ていることから、各回次とも難度に変化はなかったようです。中央大学附属は昨年帰国生入試を新設しました。一般入試は1・2回合計で一昨年前年並み、昨年、今年も小幅ですが増加が続いて人気が上がっています。帰国生入試は昨年並みの応募者数でした。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、昨年に続いて少し

難化したかもしれません。

成蹊は一般入試と国際学級入試を行っていて、さらに2月1日午前の1回に帰国枠を設定しています。応募者数は一昨年の国際学級が前年並み、一般1回は減少、4日午前の2回は少し増えていました。昨年は各回次男女とも増加、今年も国際学級と1回が昨年並み、2回が少し増えています。実際の受験者数は昨年並みで合格者は少し増えています。合格最低点は1回の女子が下がっていますが、得点分布の関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。男子と2回は昨年並みで、難度は変わっていません。独特な存在の創価は、2月1日午前のみの入試です。応募者数は、昨年は男子がやや増えて女子は一昨年並み、今年も男女とも少し減っています。合格最低点は公表されていませんが、難度は昨年とあまり変わっていないようです。

明治学院は、各回次合計の応募者数の増加が続いて、今年も増えて人気が上がっています。ただ、増加の中心は男子で、2月1日午後の1回は女子の応募者が少し減り、2日午前の2回も昨年並みですから、人気の動向が少し変わってきたのかもしれませんが。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、1・2回は男子の合格最低点が上昇、難化しています。4日午前の3回は少し下がっていますが、もともと3回は男子も同校の中では高水準でしたから、他の回に近づきました。女子は各回とも昨年並みです。玉川学園は2月1日午前、2日午前の科目選択から英算を取りやめ、算理を新設しました。国際バカロレア(I B)クラスを持つ学校です。各回次合計の応募者数は一昨年前年並みでしたが、昨年、今年と増加が続いています。同校は首都圏でのI Bの草分けであることもあって、固定ファンが多い学校ですが、そのファンが拡大しているようです。難度面は各回次とも昨年並みでしょう。

東海大菅生は一昨年まで隔年的な応募者数の増減が見られ、昨年は増える順番でしたが減少、今年も各回次とも増加しました。2月2日午前で特待を認定したり、2日午後を2科4科選択から英語も含む科目選択に変更しましたが、他の回次も増えていますから、傾向が変わったようです。もともと不合格者があまり多くない学校で、合格最低点も昨年とあまり変わっていませんから、難度は昨年並みでしょう。帝京八王子は2月3日の入試を取りやめて8日に新設するなどの

変更がありましたが、今年も小規模な入試でした。

明星はグローバルサイエンス(MGS)と本科の2コース制です。2月2日午後の1教科入試を午前に移行、2日午前の本科入試を4科のMGSに切り替えるなどの変更がありました。入試の新設が盛んで、昨年まで各回次合計の応募者数は増加を続けていて、今年も増えています。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、特に本科は不合格者が少なく、難度に変化は見られません。MGSも性格上、昨年の難度とあまり変わらなかったようです。

独特な教育方針の和光は、2科4科選択を2科に統一するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、昨年は増えましたが、今年も昨年並みです。欠席が減って実際の受験者数は増えましたが、同校の合格基準に達する受験生が少なかったようで、合格者数は昨年より減っていて、二次募集を行いました。基準を守る姿勢は明確です。難度は特に変わっていません。国立音大附属は、音楽のプロを目指すコースのほか、普通コースは音楽教養に力点を置いていましたが、音楽教養は音楽準備コースとして分離、普通コースを文理コースとして通常の大学受験を目指す教育内容に改めています。もともと小規模な入試の学校ですが、改革が受験生に浸透していないようで、今年も小規模でした。

系列大学があっても付属カラーが薄い学校では、帝京大学は一昨年は各回次とも応募者が小幅の増加で、男子が増加の中心でした。昨年も各回次とも応募者が増えましたが、女子が増加の中心で、今年も2月1日午前の男子が昨年並みの応募者だったほかはすべて増加、人気が上がっています。3日の3回以外は合格最低点が少しずつ上がっていて、やや難化したようです。東京電機大は一昨年までは応募者が少しずつ減る傾向が続いていましたが、昨年は各回次とも増加、今年も2月1日午後の2回の男子がやや減ったものの、それ以外は昨年並みの応募者数でした。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化は見られません。

桜美林は12月に帰国生入試を新設、2月2日午前の入試を教科型から教科横断の総合学力入試だけに変更しました。1日午前に2科4科選択の入試と並行実施している入試と同タイプです。昨年は各回次合計の応募者が増えましたが、今年も減っています。減少の中心は2日午前で、教科型の入試から総合学力入試

に変更したためです。同校としては、教科型で学習している受験生が多い中で、総合学力入試に切り替えれば応募者が減ることは重々承知の上で、今後を考えて踏み切ったものです。同校の想定通りの結果になりました。合格最低点は1日午前の2科4科入試が少し下がり、1日午後はやや上がって、1日午前の総合学力入試は上がりました。他の回次は昨年並みです。出題の難度や得点分布の関係もありますが、第一志望が多い1日午前の2科4科入試は、やや入りやすくなったのかもしれない。他の回次は、1日午後や1日午前の総合学力入試も含めて、難度は昨年とあまり変わっていないようです。

武蔵野大学は昨年、武蔵野女子学院が共学化して校名を変更した学校です。選抜進学と総合進学の2コース制を取りやめ、単一コースとし、適性検査型入試や思考力入試、自己表現入試なども実施しました。このため、応募者は大きく増えていて、男子だけでなく共学化に期待する女子の増加が目立ちました。今年も一部の日程で科目選択を拡大したほか、思考力入試を、「アドベンチャー入試」として基礎学力テスト+スカベンジャーハントの入試に衣替えしました。スカベンジャーハントは一種の宝探しゲームで、リーダーシップと判断力などが評価基準です。各回次合計の応募者数は今年も大きく増えていますが、実際には新タイプの入試の応募者は少数派で、従来型の科目や科目選択の入試の応募者が多数派です。実際の受験者数は増えていますが、合格者は絞っていて、人気を背景に徐々にレベルアップを図る方針でしょう。難度面ではやや難化したかもしれません。

日大第三は、一昨年は各回次合計の応募者数が前年並み、昨年は少し減っていましたが、今年も各回次とも増えていて、男子の増加が目立ちます。中学受験の拡大も同校の人気を後押ししています。実際の受験者数も増えていますが、合格者は少し絞っていて、合格最低点は本稿執筆段階で未公表ですが、少し難化したようです。多摩大聖ヶ丘は隔年的な応募者数の増減が見られた学校で、一昨年は各回次とも応募者が減少、昨年は大きく増えました。今年も回次ごとでは昨年並みも見られ、合計ではやや減っているものの、少し傾向が変わってきました。合格最低点は全体的に少しずつ下がっています。出題の難度や得点分布の関係ですが、1日午後と2日午後はやや入りやすくなったのか

もしれません。他の回次は昨年並みの難度でしょう。

工学院大附属はハイブリッド特進、ハイブリッド特進理数、ハイブリッドインターの3コース制で、グローバル対応を強化した教育内容です。グローバル対応を強化した教育内容は、東京都心部では評価が上がっていますが、同校の通学エリアでは地域的にもまだなかなか需要が大きくないようで、各回合計の応募者数は、昨年まで少しずつ減っていました。そこで新宿の大学キャンパスからも直行のスクールバスを運行するなどの手立てを行っています。こうした積極姿勢が受験生に浸透したようで、今年は増加しました。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、各コース各回次の難度はあまり変わっていないようです。

純然たる進学校では、穎明館は昨年、2月2日午後に入試を新設、多くの受験生が集まり、それまで減っていた各回次合計の応募者数も増加しました。今年は2月のグローバル入試を4科と2科+英語の選択から、2科+英語のみとしています。今年は一般入試各回で、男女とも応募者が大きく増えました。昨年の午後入試がきっかけで、受験生に進学校として再認識されたのでしょうか。実際の受験者数も増えていますが、合格者数の増加はあまり大幅ではなく、実質倍率は上がっています。合格最低点は1日午前の1回が少し下がっていますが、出題難度の影響でしょう。他の回次は昨年並みで、難度に特に変化は見られませんでした。

昨年新設開校したドルトン東京学園は、各回次合計では650名近い応募者、350名を超える実受験者を集め、平均すると1.3倍台の実質倍率で、存在感を示しました。2年目の今年は応募者数で800名を超え、実受験者数も600名近くとなり、順調に推移しています。国内の難関大学だけでなく海外大学も狙い、アクティブラーニング型授業やICTの活用など、最先端の教育を実施する点が支持されているのでしょう。難度面では、昨年とあまり変わっていないようです。

八王子学園は東大医進・一貫特進の2コース制です。今年は2月1日午前の東大医進入試で適性検査型だけでなく2科4科も追加、1日午前で並行実施していた一貫特進入試を2日午後、2日午後の東大医進入試を2日午前に移して適性検査型に変更しました。一昨年は各回次合計の応募者が増加、昨年は回次ごとでは増えた回次もありましたが、合計ではやや減っていて、

今年は大きく増加しました。全体に入試回数が増えたための応募者の増加です。全体的に昨年並みの合格最低点の回次が多いのですが、最終回の3日午後の一貫特進入試は上昇が目立ち、少し難化したようです。

聖徳学園は、プログラミング入試を新設するなど、ICTの利用を積極的に進めていて、今年は2月2日午前入試の科目をプログラミングとコミュニケーション英語からプログラミングのみに変更しています。各回次合計の応募者数は、一昨年は増えましたが、昨年は少し減って、今年は増えました。隔年的な変化ですが、同校の看板のICT教育が受験生に浸透したようで、減少よりも増加の幅が大きくなっています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は特進入試では基準点が引き下げられたようで下がっていますが、他の回次は昨年並みで、学校の難度はあまり変わっていません。

独特な教育方針の明星学園は、曜日の関係で帰国入試を1日前倒しにしました。各回次合計の応募者数が一昨年、昨年と小幅ですが増えていました。しかし今年は厳密には若干減り、昨年並みの応募者数です。実際の受験者数、合格者数も昨年並みで、難度もあまり変わっていないようです。国立の学芸大小金井は、一昨年以来今年まで、前年並みの応募者数が続いて安定した人気です。今年も補欠が出ていて、難度はあまり変わっていないようです。

啓明学園は2月1日午後算数1科の特待入試を新設、プロテスタント校なので2日の入試を3日に移しました。もともと小規模な入試の学校ですが各回次合計の応募者数は倍増していて、新設の特待入試だけでなく、他の回次も増えています。難度面では、特待入試は他の回次より1ランク高い難度、他の回次はあまり変化がなかったようです。インクルーシブ教育の武蔵野東は、国語重視型の入試を新設したほか、2月1日午前の科目選択を拡大するなどの変更がありました。今年も小規模な入試でした。八王子実践は昨年から国算の教科型の入試は行わず、適性検査型、自己表現、英語だけで、今年はプログラミングが加わりました。もともと小規模な入試で、今年も小規模です。自由学園は独特な方針で、小規模な入試の学校です。最近では広報活動にも力を入れているようですが、今年も小規模でした。東星学園も同様に今年も小規模です。